

旅立ち

社会福祉法人しらとり会
利用者通信 (NO. 64)
令和2 (2020) 年10月1日発行

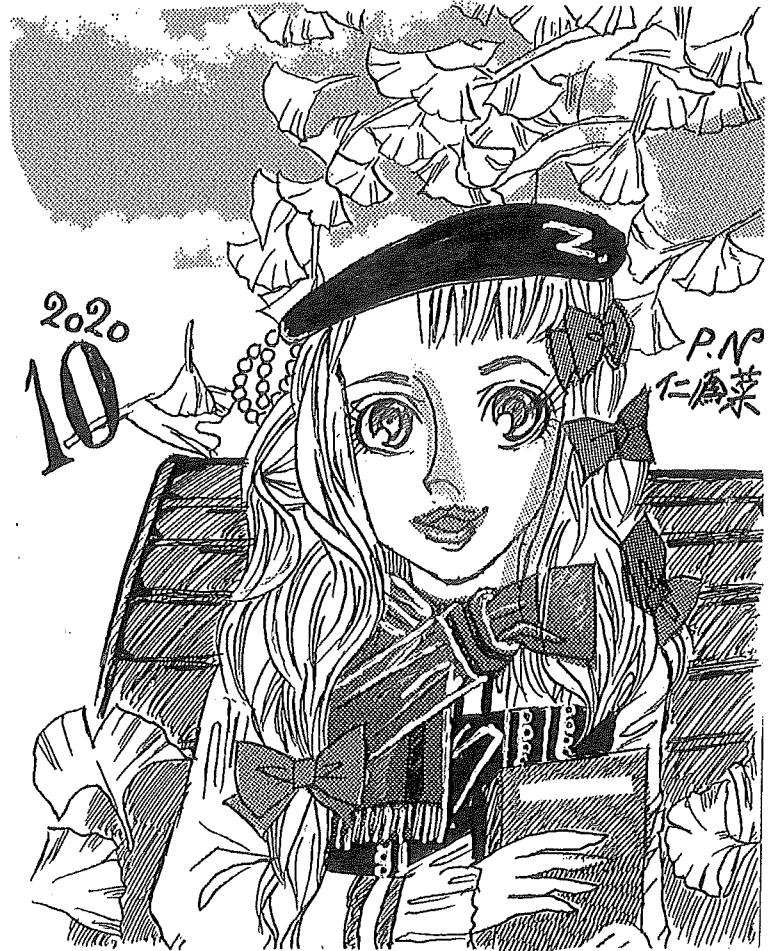
今月は、5名の方からの投稿です。

謎かけ

・ウクライナ共和国全土が停電したとかけて
その国の人々が愚痴をこぼしたと解く
その心は? 「うっ、暗いなあ」。

・学校の音楽の授業とかけて
ロシアの音楽家が特別講師に招かれたと解く
その心は? 「起立、礼、チャイコフスキー!」。

(岡本 祐子)

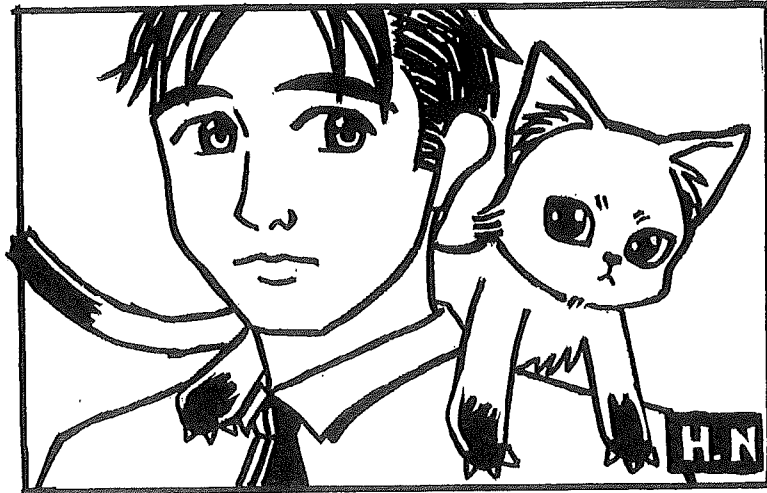


1986年 —同志社大学卒業後の話— (その3)

—1986年4月から1987年、1988年の事—

その入院の後は、U先生が浜田の精神科の病院であるN病院に戻られました。そんな調子だったから、浜田の自宅がS58 (1983) 年、水害で浸かったこともあり、両親と僕とで、京都の九条に移り、ひたすら、何もしない生活だったので、VTRで、『男はつらいよ』シリーズを全部観ていたりしました。僕も27歳になってました。近所のガソリンスタンドに27歳にもなって履歴書を持って行きましたが、採用されませんでした。

(YY)



- 毎日デイケアや施設に通っている利用者がいる。
- 地域に根付くとはどうやら福祉関係者とだけ付き合うことらしい。
- これでは永遠に地域の人に認められないだけでなく、同じ障害者からも付き合うと進歩出来ないと無視され適当に扱われる。
- 社会経験未熟な職員と言う人種の指導では障害者が社会復帰出来ない。
- 職員は自分が万能と思っている。
- 自惚れている職員に正確な治療や支援は出来ない。
- 足りないところを穴埋めする支援のやり方では莫大なお金がかかり税金が上がり、生活が苦しくなり障害者が目の敵にされる。

(加藤忠男)

【投稿の募集】

読んでいただいた方からのご感想をお寄せください。また、利用者の皆様からの投稿をお待ちしています。

次回の締切は、10月15日(木)です。

『旅立ち』編集委員：加藤、本川、A.-Z.、H.A.